

## 下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和6年度第1回下野市子ども・子育て会議  
日 時 令和6年8月1日（木） 午前10時00分から11時25分まで  
会 場 下野市役所 203会議室  
出席者 一戸幸宏委員、新田知明委員、小倉庸寛委員、野口恵美委員、  
佐間田香委員、近藤令兒委員、藤川智子委員、荻原健一委員  
中田好則委員  
【欠席委員】大橋なみ子委員、小池里美委員、川中子源委員、金澤芳之委員  
津野田仁大委員、  
市側出席者 （事務局）荻原健康福祉部長、浅香子育て応援課長、  
大山子ども家庭センター長、間板健康増進課長  
齋藤学校教育課主幹、添野子育て応援課課長補佐、  
山家子育て応援課課長補佐、大越子育て応援課主査、  
小林子育て応援課主事  
公開・非公開の別（ ☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開 ）  
傍聴者 0名  
報道機関 なし  
議事録（概要）作成年月日 令和6年8月2日

### 1. 開 会

（事務局、浅香課長）

皆様おはようございます。本日は大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。私は子育て応援課長の浅香と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。それではただいまより、令和6年度第1回下野市子ども・子育て会議を開会いたします。まず本日の委員の出欠状況ですが、事前に大橋委員、小池委員、川中子委員、津野田委員、金澤委員からご欠席の連絡を受けております。現在9名の委員の出席がございますので、下野市子ども子育て会議条例第6条第2項の規定を満たしておりますので、会議が成立することをご報告いたします。会議に入ります前に、事務局で人事異動がございました。少し顔ぶれが変わりましたので、事務局の職員の自己紹介をさせていただきたいと思います。

#### 【事務局、自己紹介】

（事務局、浅香課長）

以上の事務局で今年度も進めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。また委員No.13番、荻原様におかれましては、前任の小林様から残りの

任期を引き継いでいただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。それでは次第に則りまして、まず会長からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(佐間田会長) 本日もお忙しい中お集まりくださってありがとうございます。事務局も新しいメンバーになったということで私たちも心機一転、あと来年度新しい計画ができるそうですので、現場の人の意見をたくさん盛り込んでいただけたらと、たくさんのご意見をお願いしたいと思っています。またいつものようにですが、意見に間違いはございませんので、どんどん忌憚のないご意見をおっしゃってください。議事後にご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございます。それでは議事に入ります。下野市子ども・子育て会議条例第6条第1項の規定により、会長に議事進行をお願いしたいと思います。佐間田会長、よろしくお願いします。

(佐間田会長) それではまず議事録署名人の選任ですが、本会議の議事録署名人は小倉庸寛委員をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(小倉委員) はい。わかりました。

(佐間田会長) ありがとうございます。それでは議事に入ります。次第(1)、第二期子育て応援下野っ子プラン令和5年度分点検評価報告書について、事務局からの説明を求めます。

(事務局、添野課長補佐)

**【資料1「第二期子育て応援しもつけっ子プラン」令和5年度分点検・評価報告に基づき説明】**

(佐間田会長) ただいま事務局より説明がありました。先ほどの内容について、皆様、事前に資料を読んできていただけたかなと思いますので、ご質問やご意見などございますか。小倉委員、お願いいたします。

(小倉委員) 吉田保育園の小倉と申します。よろしくお願いします。まず1つは、5ページの量の見込みと確保の内容ですが、保育事業の3号認定の1、2歳児の令和5年度の欄はミスでよろしいですか。マイナスの44ということでしょうか。

(事務局、山家課長補佐)

申し訳ございません。そこは黒三角をつけて、マイナスでお願いします。

(小倉委員) 私は今の説明で納得できますけれど、確保の内容が計画の数となると、計画というのは下野市で設定した数なのか、それとも各事業の利用定員などを積み上げた数ということなののでしょうか。

(事務局、山家課長補佐)

子育て応援課と各施設で打ち合わせをさせていただいていて、その中から見込みを受け皿の部分として出しているのが確保の内容になっております。例えば、1号認定の令和5年度の③確保の実績は565の受け皿を用意できましたという実績になります。

(小倉委員) すみません。今のは、②確保の内容というのは各事業者が積み上げた利用定員の数ということでしょうかという質問です。そうではなくて、確保の実績が利用定員の数なのか。確保の実績というと、実利用人数なのか、実数なのか、その計画の実績なのかがはっきりわかりません。

(事務局、山家課長補佐)

確保の実績が計画の実績でありまして、ここに数字は載っていませんが、在園児の実績で、1号認定が470です。

(小倉委員) 確保の内容は各施設から上がってきた利用定員を設定した数ではなく、確保の実績が利用定員数ということで、さらに実利用人数が他にあるわけですね。

(事務局、山家課長補佐)

はい。ここには示されていませんが。現在の園児の人数というのがあります。ここで報告しますか。

(小倉委員) それがわかれば私はいいです。足りているのか足りていないのかがはっきりわからなくて、一般の方だと、マイナスは足りてないと思ってしまったりするのかなと心配されます。例えば、私が今質問した3号認定の1、2歳児の確保の実績から確保の内容を引いたら、マイナス44となり、これは足りているということになるのですね。44人の空きがある、確保の内容ということになるかなと思います。3号認定の1、2歳児は、令和5年度に確保の実績で674人の利用定員を設定していますが、実利用したのは何人になりますか。

(事務局、山家課長補佐)

596 人です。

(小倉委員) 十分足りているということで間違いないでしょうか。

(事務局、山家課長補佐)

はい。次回からは在園児の数も加えていきたいと思います。

(小倉委員) 結果、待機児童は0ということになるということによろしいですね。実利用の人数から、待機児童の数がわかると思います。量の見込み、確保の内容、確保の実績がわかりづらく、うまく作られていないかなと思うところがありました。もう1つ、8ページの6番、養育支援訪問事業です。先ほどのお話だと、実際には実利用の数があるということですが、これはプラスの数値になっています。三角がついてないということは、足りていないということになると思います。足りていないのか、利用者数がすごく多かった計画ということになりますか。もう1つ、一時預かり事業のファミリー・サポート・センターで、9ページです。一番下の欄で、計画的には980ですが、実際利用した人は1,203人。223人分も足りてないということになります。ファミリー・サポート・センターをもっと充実させないといけないという計画になると思います。このプラスというところの考え方を、じゃあどうするのかというご説明をもう一度いただいてもいいでしょうか。

(事務局、添野課長補佐)

今小倉委員からご指摘ございましたファミリー・サポート・センターについても同様に、お話いただいた通り、当初見込んでいた数よりも、利用された方がたくさんおられたということで、まさにそういった内容でございます。実際には現場で対応していますが、より充実した支援体制を構築していく上でこの数値につきましては参考にさせていただき、来年度以降の事務局の準備体制に生かしていきたいというふうに考えております。確かに当初の見込みよりも多くの方にご利用いただいたというような内容でございます。

(小倉委員) ファミリー・サポート・センターの実利用した人数というのが見えてないから、どのぐらい必要なかがわからない。計画の見込み量、計画の実績だから、ちょっと見えづらいなと思うところがありました。妊婦健診事業も足りてないということになりますが、計画の実績が足りていないというのは、計画の立て方が悪いのか、どういうことで足りていないのか、もう少しわかりやすくなしないと、一般市民の方はわかりづらいと思います。現場では全然入りたいところに入れないという人が多いのに、待機児童いませんという話になって、そこに差が出てくるのかと思います。私入りたいのに入れないという

人がいたり、私検診受けたいのには受けられないという人が出てきているのかなと思いました。現実には合った計画にならないといけないのかなと思いましたので、ご意見させていただきました。どうしても1つだけ気になっているのが、64 ページです。64 ページにC評価があり、他にはないので何なのかなと思いました。A評価が多く、すごく評価がいいのはわかります。C評価が何かなといういろいろ見ていくと、休日保育がCで、あと保育事業評価がC、少しここは見直したほうがいいかなと思いました。64 ページの親育ちの支援、保育士体験事業というのは、教育保育施設に通う児童の保護者を対象に、保育士の仕事を体験して、子どもの様子や保育の内容を親に、特に父親に進めていこうという事業でとてもいい事業だと思います。目標は20%で、令和5年度は半分の10%のため、評価はCだということになると思いますが、この辺をどういうふうに今後やっていくかということを、こういうことこそ事業者、現場に意見を聞き、進めないといけないと思います。事務局が机の上だけでやるということではなくて、現場からの意見で、こんなふうにしたらどうですか、これやりましょうかとか、そういう対話の上で進めていけたらいいのではないかと思います。同じようにその隣の世代間交流の推進も、事務局だけで考えていては話が進まないですし、次の66 ページの育児参加促進という話も、先ほどの親育ちの支援に入ってくることだと思いますので、ぜひ現場と力を合わせて、進めていってもらいたいと思います。以上です。

(佐間田会長) ありがとうございます。他にご意見はございますか。近藤委員、お願いいたします。

(近藤委員) 主任児童委員の近藤令兒です。よろしくお願いします。この冊子を見ただけでは、①量の見込み②確保の内容③確保の実績がよくわからなかったのですが、庸寛先生のご意見を聞いて、もっとわからなくなっていました。量の見込みと確保の内容は全部同じ数字になっていて、私は量の見込みがこちらの考える利用者数だろうと思ったわけですが、確保の内容も各事業者の予想かと思っていました。それに、確保の実績は実績だから、実際の利用者数だと思っていたら、今の話を聞いていたら、実際の人数が違うと言っていたので、なんでだろうと正直思いました。それから64 ページ、C評価がでてきて、少しなんでだろうと思いました。あと37 ページの予防接種の推進ですが、これがどうしてBなのか。毎年B評価ということですが、そんなに予防接種しないのですかと思いました。高校生が少ないのでしょうか。どの時期が少ないのかわかりませんが、予防接種していないのだなという感想です。69 ページの放課後児童健全育成事業で、実績が0人になっています。全部評価がDということは、これ知らないのか、募集をしているけど働く人がいないのでしょうか。

(小倉委員) こういう子供が利用してないのでは。

(近藤委員) これは加配の支援員の確保に努めるという内容で、支援員が0人ということは、募集の仕方が悪いの。

(事務局、添野課長補佐)

お話をいただいています69ページの放課後児童健全育成事業ですが、こちらの指標は、特別な支援を必要とする児童の受け入れを進めていく中で、児童たちに専属で必要な支援員を配置したいと考えております。目標値を12名としておりますが、こちらの点検評価の内容にも記載させていただきましたとおり、学童保育室全体の支援員数が慢性的な問題で少し不足気味の状況で推移しています。そういった事情もございまして、支援員不足の解消には各方面で募集、案内等させていただいて努めているところです。支援員自体が不足する中で、なかなかこの加配の部分について対応ができていないということで、結果0という内容になってしまっているところでございます。

(近藤委員) そうすると結局現場が大変ということですよ。よく夏休みに学童保育をやってくれる人いないか聞かれます。それで私も何人か声をかけますが、いいよと言ってくれる人がなかなかいない状況です。だから現場が大変で。でも、いたときもありますよね。石橋か、どこか忘れましたが、ちゃんといる時期もありました。だから経験者に直接声をかけてみるとか、何かしないと現場は大変だと思います。以上です。

(事務局、添野課長補佐)

ありがとうございます。小倉委員、近藤委員からご意見いただきました表の見せ方の部分について、非常に反省しております。わかりにくい表現になっていて、実際の利用者数が記載されていないというのもわかりづらさを一層引き立てる原因となっております。こちらにつきましては、次回以降、表を少し改善させていただいて、伝わるような表現を工夫させていただきたいと考えております。引き続き、事務局で改善を図って参りますので、よろしくお願いいたします。

(佐間田会長) ありがとうございました。

(事務局、浅香課長)

本年度は来年度以降の計画を見直していくわけですが、今委員からご指摘がありましたように、本来はそのニーズ、必要な見込み量を踏まえて、この計画の中で、必要である計画上の数を設定していくわけですが。ここで比較すべきは、必要であると思っている計画上の数と、実際に市内で確保された数を

比較することになると思います。例えば、この幼稚園の入る見込み数と実際に確保できた数を比較するのが、通常だと思います。実際に利用された方の数を比較ではなく参考値として出し、我々の立てた見込み量とこれだけの乖離があったということを把握することによって、次の計画にそれを反映させるというやり方が本来であったと思われます。ただ、少し見づらい表になってしまい、そこがわかりづらかったと思いますので、今後改善していきたいと思います。この表は、先ほど事務局で説明していますように、必須記載事項で国の手引きに基づき、各自治体共通で作る内容になっていることから、そこに少し引っ張られてしまった部分もあったということを反省しております。今後よりわかりやすい表にしていきたいと思っておりますので、どうぞご理解よろしくお願いします。

(佐間田会長) ありがとうございます。他にはご意見よろしいでしょうか。

(間板課長) 近藤委員から予防接種の評価が全部Bということでご指摘いただいた点について、37 ページ、こちらの指標名に書いてあるとおり、これは小学校6年生の2種混合の接種率で、全体の予防接種の接種率ではなく、特定のものを目標にしております。他の予防接種については、100%に近い接種率ですが、その対象者が幼児期でなくて、この時期に1回限りの破傷風とジフテリアというものです。11歳から13歳で1回接種するものですが、ここがどうしても伸びないというのが実際現状あります。目標値は他の予防接種と同様に、幼児期を含めて、90%という高い目標しているところもありまして、このような数字になっている現状であります。説明書と予診票を個別に、破傷風とジフテリアは接種時期に送っておりますし、広報等でも勧奨していきたいと思っております。

(近藤委員) では対象者が小学生だけになるのではないのですか。

(間板課長) これは予防接種の推進という事業名で考えますと、全部対象に入ります。

(近藤委員) わかりました。破傷風って結構怖いから、それを保護者にわかってもらいたいと思います。

(佐間田会長) 説明ありがとうございます。他にはいかがですか。

(山家課長補佐)

小倉委員から64ページ65ページと、いろいろな事業についての実績、特に親育ちの支援についてですが、令和3年度はコロナ過で事業が少なかったため、実績は増えているようにみえますが、令和5年度になり、コロナが5類

になって、いろんな事業が増えてきて参加者が分散されたため、実績は減っています。小倉委員が言っていたとおり、現場の幼稚園や保育園に話を聞きながら、こういう事業一緒にやりませんかとか協力しながら、声をかけながらやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。他の事業についても、世代間交流も協力してやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(佐間田会長) ありがとうございます。では次に進ませていただいてもよろしいでしょうか。それでは報告(1)の第三期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について、説明を求めます。

(添野課長補佐)

**【資料4 第三期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査に基づき説明】**

(佐間田会長) ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありました。このことについて、何かご意見などはございますか。では私から1つよろしいでしょうか。佐間田と申します。意見には間違いがないという話を前提に少しお話をさせていただこうかなと思います。3月の会議の後に、自由記載の部分を拝見したいということで、その後送付された資料を拝見しました。大変厚い資料でしたが、本当に興味深く拝見させていただきました。一保護者としては、そうだな、何年前からこれは欲しかったよとか、また、市側の意見としてはきっとここは予算が難しいのかなとか、いろんな感情をいただきながら拝見いたしました。教育委員会の内容と一部かぶっておりましたので、教育委員会にこの内容を情報共有してもいいかなと思い、持って参りました。教育施設に関することや特別支援教育のことであるとかを持って行って、読んでいただき、意見を頂戴したところ、読むのが少し辛いなど、保護者委員としては本当にうなずける意見でした。市側としては、ここは気持ちがわかるけれども、予算がなかなか難しいのではないかという意見がわかりました。私自身の感想となりますが、このニーズ調査は結果報告書になってしまうと、データだけでこういう結果となってしまうけれど、自由記載こそが本当の市民の生の意見で、市長がフィールドワークをするのと同じような市民の意見なのだろうなと思いました。この自由記載の資料は私たちが欲しいと言ったから出てきた資料であって、言わなければ素通りしていたものですが、これが一番生の意見で、これはきっと市長も読んでいないよなと思いました。こんな厚い資料ですから読んでいただくことは無理なのかなと思いながらも、坂村市長が子育て支援というものを掲げているのならば、ここに予算をつけていただかないことには、事業が進まないと思います。読んでいただくにはどうしたらいいのかなと考えたときに、1つはこちらの会議でぜひこの自由記載を市長に読んで欲しいと言う、もしくは、微妙な立場ながらもタウ



ントークに1人で行って読んでくださいと言うか、どうしようかなと思いつながら、ぜひこの生の意見を伝えたいなと思いました。私は育児していますが、もう10年ぐらいは赤ちゃんを育てていないですし、もう世代が交代しているかと思っています。先日、まだお子さんを産む前の大学生に会いました。8人いて、結婚したい、子供を産みたいと思うかと聞いたら、半分しか子供を産みたいと思わないと言いました。実際、その理由はメディアで言われているようなことでしたが、学生は看護師さんの卵で、実際に赤ちゃんや子供に触れ合うと、かわいいかわいいと言います。だから、メディアに踊らされている部分もあるのかなと思いますし、小さい子がいる世代の生の意見を市長にぜひ伝えたいなと思います。私の個人的な意見ですが、皆さんは前回の自由記載を読んでどんなことを思ったのか、少しお聞きしたいなと思っています。何かを感じられたこととかございますか。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございます。このニーズ調査の自由記述については、市長にもお渡しします。我々事務局も自由記述を当然読みまして、中に入っている様々なニーズというものを拾い上げて、これから作っていく計画の中に盛り込んでいけるように努めていきたいと思っています。また前回委員の皆様はこの報告書案と自由記述を送らせていただいて、委員の皆様からのご意見をいただいています。その結果についても、結果報告書の最後の第4章調査結果の取りまとめというところにふまえております。これはあくまでアンケートの取りまとめになってしまっていますが、この取りまとめ内容は議会に報告しています。議会に報告した資料には、委員の皆様から出ましたご意見も、結果の分析として盛り込んだ資料を提出させていただいております。私どもとしては、委員の皆様からのご意見、自由記述にあるような一人一人のご意見など、すべて踏まえたうえで、今後の計画の中にできる限り施策として落とし込めるように努めて参りたいと思っております。

(佐間田会長) どうぞよろしくお願いいたします。他にご意見などございますか。

(新田委員) 佐間田会長と同じようなこととなりますが、自由記入欄の意見は、私たち保護者からすると、市長に届いているものだと思っていたので、どこまで市長に話がいっているのかなと思いました。この資料だけ渡されても、市長も内容が多分わからないから、改善しようがないと思います。これをぱっと見ても、経済的支援って何だろうとなります。アンケートを書ってくれた人がいるので、その意見を見てもらわないと、上まで通じないですし、細かいことまで大変だと思いますが、もっと伝えてもらわないと、私たちの声は届かないので、市長にちゃんと届けて欲しいと思いました。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございます。今、委員からのご意見もありましたように、小倉委員からも前回の会議で同じような意見が出ていました。市長に届けたいという思いの方もいらっしゃる、誰かに聞いてもらいたいという思いのママさんたちもいっぱいいらっしゃるのだなということを、実感としてすごく感じております。なかなか1つ1つをすべて受けとめるのは難しいですが、そういった意見を聞く場であったり、誰かに聞いて欲しいというママさんのニーズを受けとめる場とか、そういった場づくりという意味で計画の中に盛り込むことは可能かもしれません。受けとめられる部分については、少しでも施策の中に盛り込めるように、我々もこの計画づくりの中で進めて参りたいと思っています。今後も計画策定の中で、委員の皆様からのご意見やそういった要望を踏まえながら、計画の中に落とし込んでいくという形で進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

(佐間田会長) ありがとうございます。他にご意見ございませんか。なければ次に進ませていただきます。それでは、報告(2)今後の策定スケジュールについて事務局からの説明を求めます。

(事務局、添野課長補佐)

【資料6 令和6年度(仮称)しもつけっ子応援プラン策定に係る年間スケジュールに基づき説明】

(佐間田会長) ありがとうございます。この件について皆様からご質問等ございますか。

(近藤委員) 日にちは決まっていますか。10月は上旬ということですか。

(事務局、添野課長補佐)

そうです。10月上旬または中旬に予定をさせていただいています。日にち等決まりましたら、ご連絡いたします。

(佐間田会長) 他はいかがでしょうか。

(小倉委員) 水曜日ではない日がいいのですが、そういう意見でもよろしいですか。

(事務局、添野課長補佐)

わかりました。

(佐間田会長) 他にはご意見ありますか。議事につきまして問題なければ、最後に皆様からご意見頂戴したいと思います。

(小倉委員) 会議に来る前に、ある議員の議員報告か何かのコピーをいただいて、そこにはこの間議会で子ども・子育て会議の質問があったことが書いてありました。子ども・子育て会議が行われているけれど、偏った参加者が多く、幅広く意見を聞けていないのではないかということでした。これだけ幅広い方がいらっしゃって、意見を何回も聞いていて、0歳から高校生ぐらいまで子どもの話をして、幅広い話をしているけれど、この会が偏っているとと言われると少し心外だなと思いました。どういう意味でそういうことを聞いたのか。1回も聞いたことも見たこともない、議事録を見ただけなのか、ニーズ調査の結果報告書を見ただけなのか、先ほどの自由記述をみて言っているのか、それで偏っているとと言われてしまうと、来て聞いてみたらいいのにと思ったりします。先ほどから言っているように発信が何か上手じゃないというか、議事録だけを作って報告しているだけでは市民には伝わらないというか、もっと意見を欲しいのに意見をいただけなかったりすることがあるかなと思ったりもします。このニーズ調査の自由意見の中にも、情報提供がわかりにくいという意見がすごくあつたりするので、どのようにしたらいいかは僕にも少しわかりませんが、この会議もそうですけども、事務局にも発信力というのを、今後も考えていただきたいなと思います。

(佐間田会長) ありがとうございます。では野口委員から一言ずつご意見をいただければと思います。

(野口委員) しば保育園の野口です。よろしくお願いします。委員のみなさんがいろんな意見を言うことによって、わからないことを聞くことができたり、こういう方がいいんじゃないか、ああいう方がいいんじゃないかって意見が出たことによって、こういうとこですね、ああいうことですねと話し合っていて、市もそれを見直して、次に生かしていけるというこの会議は、改めていいのだなと思いました。必ず次に生かしてくれるなと思ったのが、この調査票を出すときにみんなの意見を聞いてくれていました。その時に、わかりやすいほうがいいんじゃないかとか、自由欄入れたらいいんじゃないかとか、イラストを入れたらいいんじゃないかとか意見が出ていたと思います。その後市が作ってくれた調査票をみたとき、それが全部ちゃんと入っていて、市はみんなの意見をちゃんと取り入れて生かしてくれているのをすごく感じました。皆さんいろいろなところから来てくださっている委員なので、偏ってはいないのではないかなと私も思いました。

(近藤委員) 主任児童委員の代表で来ています、近藤です。よろしくお願いします。知合いの主任児童委員が学童保育をやっていたので、現場が大変なことを思い出しました。私も学童保育をやりたいなと思いますが、誰か代わり農家をや

ってくれたらなと思っています。以上です。

(藤川委員) 助産師会、現場の方からいろいろ情報提供できればと思って、参加しています藤川と申します。よろしくお願いいたします。前々回の時に、育児休暇を取っているお母さんが上の子の保育園を退園しなきゃいけないということをお報告しました。令和6年度から退園しなくてよくなったということをお聞きして、情報を提供すると、いろいろ考えてくれるのだな、子育て会議すごいなと思いました。現場の声を私たちの方で、こういう会議の中でどんどん発信していくことが必要ということを変更して考えました。私は0歳児の赤ちゃんを育てているお母さん方と接することが多いのですが、育児力は低下していて、訪問に行くと、1対1の子育ては何かできるかな、1対2とか1対3はできないとかいう感じがあったりします。保育園の先生方が伴走支援みたいな感じで、アドバイスをしたり、いろいろ寄り添って子育てを応援していくことで、段々とお父さんお母さんが育っていくのかなと、最近強く感じます。ぜひそういう役割を私たちこの会議の中でも担っていければなと思います。私も現場で仕事をしたりするので、できれば月曜日と木曜日を自由活動の日としていますので、その日に会議をしていただけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

(荻原委員) 県南健康福祉センターの荻原と申します。今年の4月からセンターに異動してきました、今までの職務の中で、子育て関係は15年位前に子ども政策課で保育指導担当をしていました。4年間やらせてもらいましたが、認定こども園制度が始まったというような時代です。ただそれ以降、福祉の世界からまるっきり離れておりまして、この資料見ても福祉の部分は保育の部分しかわからないなと感じております。昨年、前任者が3回の会議をすべて欠席ということで、大変申し訳ないなと思いつつ、今日参加させてもらったところです。私もまだ子育ての知識はないのですが、今管内市町で計画策定のために子ども・子育て会議を開催しております。数が多いものですから、所長や次長、各課長とかが分担して参加させてもらっているところです。そういう方たちが出た会議の意見とかも、今後はよく見るようにして、皆さんのお力になればと思いました。以上です。

(中田委員) お疲れ様です。第一生命石橋営業オフィスでオフィス長をしています中田と申します。お世話になっております。2つお話しさせていただきたいと思います。1つが、今年に入ってといいますか、ずっと異常気象が続いていて、その外で遊ばせることが非常に難しくなっているのかなと思います。そうなりますと、やっぱり屋内であっても広々とした施設だったり、天候が左右されない施設が、いくつかあるかと思いますが、そういういった施設が必要になってくるのではないかと思います。先生方も本当にご苦労さ

れているかと思えますし、そういったお子さんが遊ぶところが必要かなというふうにもろもろ感じております。それから2つ目が、先ほど待機児童0ということ話を話していましたが、実は入れないんですという話を私は聞いています。ある方で、上のお子さんを預けていて下のお子さんが生まれたので育児休に入ったけれど預けたいと思ったけれど、実は入れてないと聞きました。他にも看護師されている方も、実は預けられてないですという話を聞いたので、実際はどんなのかなと思いました。どこに言っているのか全くわかりませんが、そういう話がありました。実態と調査の報告は違うのか、実際どんなのかなと思いましたので、お話しさせていただきました。以上です。

(一戸委員) 一戸と申します。毎回出席して感じるのが、皆さん立場が違う中で、意見交換を活発にやっただいてというのをすごく感じています。正直私の会社の下の方にも見せたいぐらいで、全く無言で早く終わらないかなと時計ばかりみている子もいるので、すごくタメになっている部分があり、毎回勉強をさせていただいています。私も小さい子供がいるお父さんお母さんを知っているので、私こういうことしていますので、何かありますかと聞いても、私の聞き方が悪いのか、なかなか意見が出てこないです。何を聞いているのかわからないとなるので、そういうところをくぐり、聞けるようになればと思います。これから子どもを産みたくないというのは、私の世代からすると、全く信じられないような感じです。この間も言いましたが、私も昨年8月に孫が生まれてすごくかわいいので、そういうことを見ると、しっかりと見る状況作っていただければと思いますので、今後もよろしくお願いいたします。

(佐間田会長) 皆様からたくさんのご意見ありがとうございました。私から最後に1つ、出生率が最低であるというニュースが出たときに、たまたま子ども3人とリビングにいて、子どもに意見を聞いたときに、僕たちの未来不安しかないじゃないかと言われてしまい、すごく悲しくなりました。先ほども言っていただきましたが、天気は異常気象ばかりだし、子育てにはお金がかかるって言うし、人口は減っていくし、毎日買うものはどんどん高くなっているし、僕たちには不安しかないよと言われ、私も切なくなってしまうと、これは何かできることからやりたいなと思ったところが正直なところなんです。今回、皆様がおっしゃってくださったように、私たちの意見が事務局に通じるのがうれしくて、そういう会議で市民の意見が、さきほどの自由記載などからでも、本当に実現できれば、市民はきっと自分が共同参画している気持ちになって、それをメディアが発信してくれれば、人口が増えるのかなとか、ちょっといろいろ考えております。ぜひ良いまちにしたいなと思えますし、不安を解消してあげたいなと思えますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

(事務局、山家課長補佐)

先ほど中田委員から話のありました保育園に入れないということについて、受け皿はあるのですが、どうしてもこの保育園に入りたいとか保護者の強い希望があり、その保育園の定員がいっぱいになってしまっていて入れないということがあります、そういった方には、次の審査前に他の園を案内させていただいたりさせてもらっていますが、保護者のご意向がやはり一番に来てしまうところがあります。全く入れないというわけではないということを、補足としてお話させていただきます。よろしくお願いいたします。

(佐間田会長) では、進行を事務局に戻したいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局、荻原部長)

本日はお疲れ様でした。先ほど小倉委員からでた議員のお話ですが、あれは私が答弁したものです。話の流れからいくと、そこだけをつまむとそういう言い方なのかもしれませんが、多分、議員が言いたかったのは高校生や大学生、そういった意見がどうしても反映されていないのではないかなというようなニュアンスだったかなと思っています。具体的にそれだとは言っていないんですが、話の流れからすると、そういう雰囲気と言われていました。極端な話ですが、このメンバーの中にそういう高校生や大学生を入れたらどうなのかみたいな流れだったと思います。ただ、それは現実的では少しないのかなと私は思いまして、そこは慎重に答えつもりではありますが、ああいった状況になったということです。この会議は、皆さんもご存じかもしれませんが、条例で定めている会議です。条例というのは市では一番上の法令で、条例で定める会議というのはなかなかありません。それぐらいこの会議は重要な会議と認識しております。また、こちらの中で出た意見は、きちっと私どもで受け止めていって、それを施策に反映していくという努力をしないといけないと認識しております。今後とも忌憚のないご意見を言っていただければ、それをすべて反映するというものではありませんが、検討しないといけないと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございました。それでは最後になりますが、今後、委員の皆さまと計画の策定に向けて、メールでのやりとりなども活用させていただきたいと思っています。先ほど事務局からありましたように、メールアドレスの連絡をいただければと思っていますので、よろしくお願いいたします。また今、部長からもありましたように、子供の意見を聞く機会というのも、この計画策定の中で作っていきたいと思っています。現在検討中ですので、こちらについても後程報告をさせていただきたいと思っています。もちろんアンケートをとれば、その結果も踏まえて皆さまにお示しできるかと

思っております。それでは、長時間にわたりまして、慎重なご審議大変ありがとうございました。次の会議につきましては、先ほどスケジュールの中でも説明しましたように、10月を予定しております。こちらにつきましてはまた決まり次第、ご通知を差し上げたいと思いますので、よろしくお願い致します。それでは以上をもちまして、令和6年度第1回下野市子ども・子育て会議を閉会といたします。大変ありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためここに署名する。

.....会長.....

.....議事録署名人.....